

2025年度

情報処理科  
講義計画集

— 第2学年 —

氏名

---

船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話:047-425-1051

---



## 2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
Java言語演習応用	鵜澤 光希・清田 玲摩・飯田 剛大 7
卒業研究	鵜澤 光希・清田 玲摩・飯田 剛大・朝賀 勝広 8
Web技術演習応用	小林 信彦 9
Oracle演習 I・II	小林 信彦 10
就職講座A応用	田邊 悦子・遠藤 幹雄 12
ソフトウェアテスト基礎	株式会社SHIFT 越後 清志、鈴木 佑介、山中 治樹 13
Linuxサーバー構築 I・II	朝賀 勝広 14
Office演習応用	平山 慶子 16
ビジネス文書	高橋 豊 17
C# 演習	鵜澤 光希・清田 玲摩・朝賀 勝広 18
プレゼンテーション	鵜澤 光希・清田 玲摩・飯田 剛大 19
社会人基礎力応用 I・II	鵜澤 光希・清田 玲摩・飯田 剛大 20
UML基礎	鵜澤 光希・清田 玲摩・飯田 剛大 22
情報倫理と生成AI活用S	柏木 貴大 23
とっさに使えるフレーズ英会話S	菊池 浩之 24
応用情報組込みシステム開発対策講座S	橘 純平 25
応用情報ストラテジスト対策講座S	須藤 健一郎 26
応用情報データベース対策講座S I・II	清田 玲摩 27
ゲーム制作S	朝賀 勝広 29
応用情報サービスマネジメント対策講座S	野本 修平 30
応用情報総合対策講座S	清田 玲摩・松脇 和樹 31
応用情報午前対策講座S	松脇 和樹・高橋 洋平 32
実践的セキュアプログラミング演習S	石神 和也 33
Pythonプログラミング演習S	飯田 剛大・石神 和也 34
Javaプログラミング演習S	須藤 健一郎 35
応用情報ネットワーク対策講座S II	加藤 尚喜 36
応用情報プロジェクトマネジメント対策講座S	野本 修平 37

## 本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校  
校長 鳥居 高之

### 教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

### 勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいますからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

### 人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

#### 元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

#### 3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

## 通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

## エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

## 禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※路上はもちろん、駐車場やマンション共用部などの私有地での喫煙は地域の方に大変な迷惑をかけることとなります。絶対にやめてください。(懲戒処分の対象となります)

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され過料(2,000円)の対象です

## 交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 [takatorii@mitsuhashi.ac.jp](mailto:takatorii@mitsuhashi.ac.jp)

以上

## 評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

## GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

## 出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
  - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
  - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
  - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
  - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」  
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
  - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

## 卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

## FJBネットID登録とメールアドレス

### 1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

### 2. メールアドレスについて

- (1) 科によってメールアドレスが設定されています。  
詳細は担任から説明があります。
- (2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。
- (3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不要なメールはこまめに消去して下さい。

### 3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにして下さい。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出て下さい。

## 実習室・インターネット使用上のルール・マナー

### 1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

### 2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

### 3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

### 4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

### 5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

### 6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

### 7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。  
また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

**学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校**  
**個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）**

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
  - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
  - (2) 就職指導、企業紹介、就職活動支援を行うため
  - (3) 入学相談および募集活動を行うため
  - (4) 入学選考試験業務を行うため
  - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
  - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
  - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
  - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
  - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
  - (4) 職業紹介で応募を希望する求人先に対し、応募情報の提供
  - (5) 職業紹介で求職者に開示の許諾を得た業務提携先に対し、応募情報の提供
  - (6) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
  - (7) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
  - (8) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行ってありますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之  
047-425-1051  
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

2025年度 教育目標と検定スケジュール

2年生

情報処理科

教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省 基本情報技術者試験の合格</li> <li>・システム構築に必要な技術の習得 (システム設計技法, プログラミング技術, データベース利用技術)</li> <li>・社会人として必要な能力の養成 (コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力)</li> <li>・システム構築に必要な論理的思考能力の向上</li> </ul>
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省 応用情報技術者試験</li> <li>・経済産業省 基本情報技術者試験</li> <li>・経済産業省 ITパスポート試験</li> <li>・経済産業省 情報セキュリティマイナマネジメント試験</li> </ul>
進級条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 科目A免除試験合格 or ITパスポート or J検</li> <li>② B検ジョブパス3級</li> <li>③ Javaプログラミング課題</li> </ul>
卒業条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 情報系 国家試験</li> <li>② 他2つ以上の資格</li> </ul>

<方針>

- 1 年次：資格取得 (座学中心)
- ・基本情報技術者試験合格を第一目標に、IT基礎知識を身につける
  - ・自分で考え、答えを導き出す力を身につける
  - ・IT業界やその職種について研究し、就職活動に向けての意識づけを行い、働くということについて考える
- 2 年次：実務能力養成 (コンピュータを使った演習中心)
- ・理論と演習を通じて、システムエンジニア・プログラマの仕事を体験し、仕事に必要な意識や姿勢を考える
  - ・グループでのシステム開発を通じ、人と共に働く力の向上を図る
- 2 年間を通して
- ・企業に役立つ高度な人材及び良き社会人の養成を目指す
  - ・社会人として必要な論理力、表現力、マナーの定着を図り、実践的なコミュニケーション能力を養う
  - ・プレゼンテーション能力、目的に応じたドキュメント作成の基礎を習得する
  - ・限られた時間の使い方を考え、納期を意識した計画的な作業を実践できるようにする

1 学年

2 学年

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1 経済産業省 基本情報技術者試験													
2 ITパスポート試験													
3 J検情報活用試験													
4 J検情報システム試験													
5 経済産業省 情報セキュリティマイナマネジメント試験													
6 B検ジョブパス3級													
7 MOS Excel													
8 経済産業省 応用情報技術者試験													
9 オラクル認定Java (Bronze)													

科目	Java言語演習応用	分類	専門科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 飯田 剛大		
テキスト (出版社)	スッキリわかるサーブレット&JSP入門 第4版		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	35%	35%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

Java、オブジェクト指向、OracleDB、SQL、HTML、JSP、サーブレット 以上の技術について段階的に取り組む。  
筆記の小テストやプログラミング課題を行い、知識を身に付けながらプログラムを作成する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

IT業界の中で多く使われているWebアプリケーションを開発する知識と能力を身に付ける。  
後期の卒業研究でWebアプリケーションのシステムを開発するため、1人で実装、エラー解析が出来る能力を身に付ける。

### 3. 注意点・要望

テーマ毎に使用する技術は異なるが、最終的に全ての技術を連携させて後期の卒業研究を行うので、  
それぞれの技術の関連を意識すること。

### 4. 関連科目

卒業研究

週	テーマ	内容
1	オブジェクト指向の復習	クラス、インスタンス、オブジェクト指向の復習
2	例外プログラム	例外の制御
3	DBアクセスプログラム	JavaとOracleDBの連携
4	コレクションクラスとDBアクセス	ArrayListの使い方とDB連携
5	JSP基礎(1)	Webアプリと動作環境について
6	JSP基礎(2)	入力フォームとイベント
7	JavaによるWebアプリ開発(1)	サーブレットと画面遷移
8	JavaによるWebアプリ開発(2)	パラメータの引き渡しとセッション
9	JavaによるWebアプリ開発(3)	WebアプリとDB連携
10	JavaによるWebアプリ開発(4)	WebアプリとDB連携
11	JavaによるWebアプリ開発(5)	Webアプリ作成(設計書)
12	JavaによるWebアプリ開発(6)	Webアプリ作成(設計書)
13	JavaによるWebアプリ開発(7)	Webアプリ作成(実装)
14	JavaによるWebアプリ開発(8)	Webアプリ作成(実装)
15	JavaによるWebアプリ開発(9)	Webアプリ作成(実装)
16	JavaによるWebアプリ開発(10)	Webアプリ作成(実装)

### 備考

システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う。

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	卒業研究	分類	専門科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希・朝賀 勝広、2組: 清田 玲摩・朝賀 勝広、3組: 飯田 剛大・朝賀 勝広		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	8
	0%	0%	35%	35%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

システムエンジニア・プログラマーの仕事に直結する実務的な演習として、グループ単位で「Webアプリケーションの開発」に取り組み、基本計画から設計、実装、テストまでの開発工程を実践する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

①システム開発に必要な視点と姿勢の習得 ②JSP,ServletなどWebアプリの基礎の習得 ③設計書作成の観点の習得  
④納期を意識した計画的な作業の実践 ⑤他人とともに働く力の向上 ⑥自ら考え行動する力の向上

### 3. 注意点・要望

クライアントとエンドユーザーの両方の視点を意識して開発に取り組むとともに、チーム内での役割分担やビジネスマナーも含め、「本校での総決算」として取り組むこと【設計書の提出期限は厳守！】

### 4. 関連科目

Java言語演習応用、Web技術演習応用、UML基礎、Oracle演習 I・II、プレゼンテーション

週	テーマ	内容
1	分析工程(1)	現状分析、コンセプトの振り返り 要求モデル(ユースケース図)
2	プログラム演習(1)	開発環境の設定(Tomcat, Eclipse) Webアプリケーションのひな形作成
3	分析工程(2)	見積書、開発スケジュール
4	プログラム演習(2)	Webアプリケーションのひな形作成
5	設計行程(1) システム開発(1)	UI設計(画面レイアウト) 画面の作成(HTML, CSS)
6	設計行程(2) システム開発(2)	UI設計(分析オブジェクト図) 画面の作成(HTML, CSS)
7	設計行程(3)	DB設計(データモデル、テーブル設計書、コード設計書)
8	プログラム演習(3)	Webアプリケーションのひな形作成、エラー処理
9	設計行程(4) システム開発(3)	設計モデル(画面遷移図) Servletの呼び出し、画面遷移、データベース操作
10	システム開発(4)	各グループのシステム開発を行う
11	設計行程(5)	設計モデル(ファイル一覧、共通変数定義書)
12	システム開発(5)	各グループのシステム開発を行う
13	設計行程(6)	シーケンス図、クラス図、メソッド仕様書
14	システム開発(6)	各グループのシステム開発を行う
15	テスト工程	テスト作業(単体テスト、結合テスト、システムテスト他)
16	納品	成果物一式の提出

備考	システム開発経験のある教員が、その経験を生かして、システム開発に必要な視点、技術、姿勢を指導する。
----	---

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

<b>科目</b>	Web技術演習応用	<b>分類</b>	専門科目、必修科目
<b>担当</b>	小林 信彦		
<b>テキスト (出版社)</b>	改訂新版 HTML&CSSデザインレシピ集(技術評論社)		
<b>参考資料</b>			

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

**1. 授業の概要**

システム開発に必要なweb技術、レイアウト、デザインについて演習を行う。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

フォームや表の扱い、CSSレイアウトについて習熟する。

**3. 注意点・要望**

HTML/CSSの規格に正確な書き方を心がけること。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容と進め方、課題や評価について
2	HTML・CSS演習1	HTML・CSSの基礎の復習1
3	HTML・CSS演習2	HTML・CSSの基礎の復習2
4	HTML・CSS演習3	table関連要素とCSS1
5	HTML・CSS演習4	table関連要素とCSS2
6	HTML・CSS演習5	課題作成
7	HTML・CSS演習6	課題作成
8	HTML・CSS演習7	form関連要素とCSS1
9	HTML・CSS演習8	form関連要素とCSS2
10	HTML・CSS演習9	form関連要素とCSS3
11	HTML・CSS演習10	課題作成
12	HTML・CSS演習11	課題作成
13	HTML・CSS演習12	まとめ・様々なレイアウトの作成1
14	HTML・CSS演習13	まとめ・様々なレイアウトの作成2
15	HTML・CSS演習14	まとめ・様々なレイアウトの作成3
16	HTML・CSS演習15	まとめ・様々なレイアウトの作成4

<b>備考</b>	
-----------	--

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	Oracle演習 I	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	[改訂2版]Oracleの基本 ~データベース入門から設計/運用の初歩まで(技術評論社)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

**1. 授業の概要**

リレーショナルデータベースの概念とSQLによるデータベース操作について理解する。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

データベースとSQL文の理解を深め、システム開発のためのスキルを身につける。

**3. 注意点・要望**

課題は確実に提出すること。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出、実習環境について確認する データベースの概略、接続と切断、SQLによるデータベース操作
2	テーブルの作成(1)	テーブルの作成と削除、データ型、制約、テーブル定義の確認方法
3	テーブルの作成(2)	外部キーと参照整合性
4	SQL文の基礎	SQL文の基本文法、SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文
5	検索結果の加工(1)	検索結果のソート、WHERE句による絞り込み、条件式
6	検索結果の加工(2)	WHERE句による絞り込み、条件式
7	検索結果の加工(3)	合計、平均値、最大値、最小値、データ件数の取得
8	検索結果の加工(4)	種類ごとにデータを集計、NULL
9	サブクエリ	サブクエリ(副問合せ)
10	テーブルの結合	内部結合、左外部結合、右外部結合
11	トランザクション	トランザクションの特性、トランザクションの開始と終了、トランザクションの取り消し
12	インデックスとビュー	インデックスの作成と利用方法、ビューの作成と利用方法
13	シーケンス	シーケンスの作成、連番の取得
14	総合問題	前期のまとめ、問題演習
15	総合問題	前期のまとめ、問題演習
16	総合問題	前期のまとめ、問題演習

<b>備考</b>	
-----------	--

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	Oracle演習Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	[改訂2版]Oracleの基本～データベース入門から設計/運用の初歩まで(技術評論社)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

**1. 授業の概要**

リレーショナルデータベースの操作、テーブルの設計について理解する。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

データベースとSQL文の理解を深め、システム開発のためのスキルを身につける。

**3. 注意点・要望**

課題は確実に提出すること。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	前期の復習	前期の演習内容の復習
2	前期の復習	前期の演習内容の復習
3	前期の復習	前期の演習内容の復習
4	正規化とテーブルの設計(1)	正規化とテーブルの設計の演習
5	正規化とテーブルの設計(2)	正規化とテーブルの設計の演習
6	正規化とテーブルの設計(3)	正規化とテーブルの設計の演習
7	副問い合わせ(1)	SELECT文のネスト
8	副問い合わせ(2)	SELECT文のネスト
9	複数テーブルの結合(1)	複数のテーブルの結合
10	複数テーブルの結合(2)	複数のテーブルの結合
11	SQLの演習(1)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習
12	SQLの演習(2)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習
13	SQLの演習(3)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習
14	SQLの演習(4)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習
15	SQLの演習(5)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習
16	SQLの演習(6)	テーブル設計、SQLとデータベースの演習

<b>備考</b>	
-----------	--

情報処理科	2年
-------	----

**【前期】**

<b>科目</b>	就職講座A応用	<b>分類</b>	教養科目、必修科目
<b>担当</b>	田邊 悦子、遠藤 幹雄		
<b>テキスト (出版社)</b>	求められる人材になるための社会人基礎力講座(日経BP社)		
<b>参考資料</b>	プリント教材		

<b>評価基準</b>	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	<b>単位数</b>	2
	0%	0%	30%	40%	0%	30%	100%		

- 1. 授業の概要**  
社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解と自己評価を行う。  
社会の仕組みや人間の思考の基本概念から、社会人としてのあり方を考える。
- 2. 授業の目標(検定取得など)**  
企業を知り、夏休みまでに企業から内定をいただく。(冒頭10分で企業紹介をします)  
入社に向け社会人としての意識を高める。
- 3. 注意点・要望**  
就職活動への取り組み状況(就職活動カードと受験報告書)も授業課題として評価対象とします。  
社会人として働くことに前向きな気持ちを持って取り組んでください。
- 4. 関連科目**

就職講座A		
週	テーマ	内容
1	就職活動の準備と対策	ガイダンス、今後の就職活動、内定から入社まで、仕事のやりがい
2	社会人基礎力(1)	社会人基礎力とは、人生設計とキャリアデザイン 社会人になるということ、3つの能力と12の要素
3	社会システム(1)	ビジネス会計： 企業の目的、財務諸表、損益計算書の基本と分析
4	社会人基礎力(2)	前に踏み出す力： 主体性
5	社会システム(2)	ビジネス会計： 貸借対照表の基本と分析、経営活動の流れ、ROA、ROE
6	社会人基礎力(3)	前に踏み出す力： 働きかけ力、実行力
7	社会システム(3)	キャッシュフロー計算書の基本と分析、現金の流れと会社の倒産
8	社会人基礎力(4)	考え抜く力： 課題発見力
9	社会システム(4)	時事問題
10	社会人基礎力(5)	考え抜く力： 計画力、創造力
11	社会システム(5)	新たな社会に向けて
12	社会人基礎力(6)	チームで働く力： 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力
13	社会システム(6)	社会心理と組織行動
14	社会人基礎力(7)	チームで働く力： 発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力
15	前期試験期間	
16		

<b>備考</b>	IT関連の業務経験と就職指導経験のある職員(職業紹介責任者)が、その経験に基づいて、就職活動全般及び個別の事例について、講義と指導を行う。
-----------	---

情報処理科	2年
-------	----

**【後期】**

<b>科目</b>	ソフトウェアテスト基礎	<b>分類</b>	専門科目、必修科目
<b>担当</b>	株式会社SHIFT 越後 清志、鈴木 佑介、山中 治樹		
<b>テキスト (出版社)</b>	ソフトウェアの品質管理(株式会社SHIFT作成教材)		
<b>参考資料</b>	プリント教材(スライドデータ)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	30%	0%	20%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
ソフトウェア開発において、品質目標を定め、適切なソフトウェアテストを計画し実施することが出来る。
<b>3. 注意点・要望</b>
講義は会話形式で進めていきます。また、演習も毎回実施しますので、積極的な参加をお願いします。
<b>4. 関連科目</b>

週	テーマ	内容
1	IT業界／ソフトウェアテストについて	・世界のIT業界における日本の位置づけ、およびソフトウェア開発におけるQAエンジニアの役割、ソフトウェアテストの重要性を学ぶ。
2	テストの実行体験	・「ソフトウェアの品質管理」を学ぶ前にテスト実行を体験することで、現時点のバグ検出能力を把握し、且つどうすれば多くのバグを発見できたのかを考える。
3	品質とは何か	・良い品質／悪い品質を考える。 ・品質を確認するためのポイントを洗い出し、品質特性別に整理する。
4	品質を検証する工程とテストプロセス	・一連のテスト工程と各テスト工程内で実施するテストプロセスについて考える。 ・テスト設計前に実施すること、テスト実行前に実施することを洗い出す。
5	テスト設計プロセス	・テスト設計のインプットとアウトプットを整理する。 ・テスト設計のプロセス全体を理解する。
6	テスト設計…テスト対象範囲の設定	・テスト対象範囲の設定方法を学ぶ。 ・テスト対象に対して、必要十分なテスト範囲設定を実践してみる。
7	テスト設計…テスト観点の紐づけ	・テスト観点とは何か、どういう利点があるのかを学ぶ。 ・日常生活(ケーキ作り)を題材にテスト観点的な作成を体験してみる。
8	テスト設計…確認項目と期待値の設定	・確認項目と期待値の設定方法を学ぶ。 ・テスト観点的な紐づけ、確認項目と期待値の設定を実践してみる。
9	テスト設計…パターン表の作成#1	・因子／水準の洗い出しと漏れのない組み合わせ設定を実践してみる。 ・基本的なテスト技法(同値分割、境界値分析)を学ぶ。
10	テスト設計…パターン表の作成#2	・テスト技法のエッセンスを復習する。 ・単純な例題に対して、テストケース(パターン表)を作成する。
11	テスト設計…パターン表の作成#3	・前回のテストケースに実行条件を増やし、テストケースを追加してみる。 ・パターン数の効果的な削減方法について学ぶ。
12	仕様書インスペクション	・各々レビュー技法の概要、およびインスペクションの効果と技法を学ぶ。 ・実際に仕様書のインスペクションを実践してみる。
13	非機能テスト入門	・非機能の概要について学ぶ。 ・システム／ソフトウェアにおける非機能の考え方、テスト手法について学ぶ。
14	理解度確認試験	・本講座全体について復習する。 ・本講座で学んだことの理解度を確認する試験を受ける。
15	実社会におけるエンジニアの今後の展望	・今後の実社会におけるエンジニアとしての仕事の進め方や、エンジニアとしてどのような活躍の道があるのかを、具体例を交えながら考え学ぶ。
16	生成AIの利活用	・生成AIとは何かを基礎から理解する。 ・生成AIの活用方法や、適切に利用するための注意点やポイントを学ぶ。

<b>備考</b>	各種システムの開発／テストから運用保守に至る幅広い経験を持つ講師が、ソフトウェアの品質について広い視野で且つ実践的な講義を行う
-----------	---

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	Linuxサーバー構築 I	分類	専門科目、必修科目
担当	朝賀 勝広		
テキスト (出版社)	Linuxコマンドブック ビギナーズ 第5版(SBクリエイティブ株式会社)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

LinuxやOSについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

Linuxについて自分の言葉で説明でき、コマンドによる基本操作が行えることを目標とする。

### 3. 注意点・要望

お互いに教え合いながら進めることを推奨する。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入 ログイン・ログアウト	授業の進め方や諸注意 サーバへのログイン・ログアウト
2	シェル	シェルの概要、コマンドによる操作の確認
3	コマンド操作(1)	ディレクトリ構造について ファイル・ディレクトリの一覧表示、コマンドによるテキストファイルの開き方
4	コマンド操作(2)	ログインユーザの表示、現在日時の確認、リダイレクション ディレクトリの作成・削除、ファイルのコピー・移動・削除
5	コマンド操作(3)	ファイル情報の確認 ファイルやディレクトリの保護モード
6	コマンド操作(4)	標準入出力とデバイスファイル
7	SSH認証鍵	SSH認証鍵の作成
8	エディタ(1)	viエディタの基本操作
9	エディタ(2)	viエディタを使ったテキストファイル編集
10	正規表現	正規表現を使った検索方法
11	コマンド操作(応用1)	ファイル検索
12	コマンド操作(応用2)	ファイル内容で検索、コマンドを連続して使う
13	コマンド操作(応用3)	フォアグラウンド処理とバックグラウンド処理、コマンドの強制終了
14	コマンド操作(応用4)	リファレンスマニュアルを参考に、コマンドの使い方を確認(1)
15	コマンド操作(応用5)	リファレンスマニュアルを参考に、コマンドの使い方を確認(2)
16	前期試験期間	

備考	学内サーバの管理を行っている教員がLinuxの基本操作などを指導する。
----	-------------------------------------

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	Linuxサーバー構築Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	朝賀 勝広		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

サーバの構築、運用方法を学ぶ。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

OSのインストールを自分でを行い、必要なサービスのインストールと設定、システム管理が行えることを目標とする。

### 3. 注意点・要望

お互いに教え合いながら進めることを推奨する。ユーザ管理を学ぶため、グループワークを行う。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入 仮想環境	後期授業の説明、グループ決め 仮想環境作成
2	OSインストール	仮想環境にOSをインストールする
3	OSの初期設定	OSのアップデート 初期設定(ネットワーク、ユーザ管理、ファイアウォール、パッケージ管理)
4	基本的なサービス	SSH、FTP、telnetなどのインストール・設定・起動
5	Webサーバ(1)	Webサーバの概要とインストール・設定・起動
6	Webサーバ(2)	SSI、CGIの設定、Basic認証の設定
7	Webサーバ(3)	ユーザーごとのWebディレクトリ
8	DNS(1)	DNSの概要とインストール・設定・起動
9	DNS(2)	キャッシュサーバ、ゾーン設定
10	ファイル共有サーバ(1)	ファイル共有サーバの概要とインストール・設定・起動
11	ファイル共有サーバ(2)	ファイル共有サーバのセキュリティ
12	データベースサーバ(1)	データベースサーバの概要とインストール・設定・起動
13	データベースサーバ(2)	データベースサーバへユーザーの追加と権限設定・SQLの実行
14	メールサーバ	メールサーバの概要とインストール・設定・起動
15	後期試験期間	
16	後期試験期間	

備考	学内サーバの管理を行っている教員が独自の課題を用いてサーバ構築を指導する。
----	---------------------------------------

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	Office演習応用	分類	専門科目、必修科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	Access2019入門(プリント教材)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	45%	25%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

- ・Word: 資料を体裁よく作成する機能や応用機能を学ぶ。
- ・Access: 基本を学ぶ。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

- ・Word: 見栄えのいい文書や資料の作成ができるようになる。
- ・Access: 仕組みを理解し、基本的な操作ができるようになる。

### 3. 注意点・要望

毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	Word	授業の年間予定、進め方 文字列とオブジェクト
2	↓	段落書式
3		表を使った文書の作成
4		スクリーンショット
5		長文作成時機能
6		作品づくり
7		差し込み印刷
8		Excelとの連携
9	Access	テーブル
10	↓	リレーションシップ
11		クエリ
12		フォーム
13		レポート
14		確認テスト
15		総合問題
16		

備考	
----	--

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	ビジネス文書	分類	教養科目、必修科目
担当	高橋 豊		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

実務に役立つ文書作成の知識と技術の全般を学ぶ。また、文章を正しく理解したうえでビジネス文書を作成する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

文章の正しい理解と文書作成能力の向上を目指し、社会に通用するビジネス文書の作成を目標とする。

### 3. 注意点・要望

プリントを多く配布するので、きちんとファイリングすること。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入・概要	ビジネス文書の概要と授業の概要を行う。
2	ビジネス文書の役割とその種類	ビジネス文書が果たす役割に関して考察する。 ビジネス文書の種類とその特徴を理解する。
3	文章表現技能(1)	文章を書く上での基礎となる主語と述語の関係、 指示語や助詞などの用い方を学ぶ。
4	文章表現技能(2)	簡潔でわかりやすい文章を学び、正確で誤りのない文章を書けるようにする。
5	文章表現技能(3)	相手に失礼がない文章を、敬語表現を踏まえて学ぶ。
6	ビジネス文書の表記と表現(1)	ビジネス文書の慣用語とその形式を学ぶ。
7	ビジネス文書の表記と表現(2)	ビジネス文書の定型文を学ぶ。
8	メール文書	メールの文章の特徴とビジネス文書としてのメールの書き方を学ぶ。
9	社外文書(1)	社外文書を理解し、その書き方を学ぶ。
10	社外文書(2)	案内状、通知状の作成。
11	社外文書(3)	依頼状、照会状の作成。
12	社内文書(1)	社内文書を理解し、その書き方を学ぶ。
13	社内文書(2)	報告書の書き方とその作成。
14	社内文書(3)	会議録の書き方と届け出、連絡の文書を学ぶ。
15	儀礼文書	儀礼文書を理解し、その書き方を学ぶ。
16	文書の取り扱いと郵便 まとめ	郵便の知識と文書の取り扱いについて学び、理解を深める。これまでの振り返りを行う。

備考	
----	--

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	C#演習	分類	専門科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 朝賀 勝広		
テキスト (出版社)	作って覚える Visual C# 2022 デスクトップアプリ入門(株式会社秀和システム)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

Visual C#を利用し、Windowsフォームアプリケーションを開発する。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

日常生活や仕事における、ちょっとした便利ツールを自身で開発できるようにする。

### 3. 注意点・要望

開発ツールの使い方を覚え、自分の手でプログラムを作成できるようにすること。  
協力しながら開発して構わない。お互いに教え合うことで自分の理解も深めること。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス Visual C#の概要	Visual Studioの使い方 Visual C#の開発環境の基礎を学習する
2	画面の設計、入力データの取り出し	簡単計算プログラムの作成(1)
3	イベント処理	簡単計算プログラムの作成(2)
4	アプリケーション作成のおさらい	タイマーの作成、付箋アプリの作成
5	画像の扱い	占いアプリの作成
6	大量のコントロール	間違い探しゲームの作成
7	デバッグ	ブレークポイント、ステップ実行、ウォッチウインドウ
8	オブジェクト指向(1)	オブジェクト指向の概要、プロパティ、メソッド イベント、イベントハンドラ、クラス、インスタンス
9	オブジェクト指向(2)	カプセル化、継承、ポリモーフィズム 抽象クラス、インターフェイス
10	NuGetの利用とファイル入出力	CSVの読み書きアプリ
11	NuGetの利用	Slack投稿アプリ
12	グラフィック機能	間違いボール探しゲームの作成
13	アプリケーション開発(1)	参考書の内容を元に自主制作(1)
14	アプリケーション開発(2)	参考書の内容を元に自主制作(2)
15	アプリケーション開発(3)	参考書の内容を元に自主制作(3)
16	アプリケーション開発(4)	参考書の内容を元に自主制作(4)

備考	システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う。
----	--

情報処理科	2年
-------	----

**【後期】**

科目	プレゼンテーション	分類	教養科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 飯田 剛大		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

各回でテーマを設定し、グループでPowerPointを用いたスライドの作成、配布資料の作成及びプレゼンテーションを行う。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

- (1)顧客視点に立ったプレゼンテーション手法を身に付ける、マーケティングの重要性、手法を理解する。
- (2)卒業研究発表会において社会人らしい発表や振る舞いが行えるようになること。

**3. 注意点・要望**

- (1)担当教員と報告・連絡・相談を密にし、効率良く最善の作業進捗を執り行うこと。
- (2)社会人として相応しいマナーや所作で常に行動し、納期厳守を徹底すること。

**4. 関連科目**

卒業研究

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	プレゼンテーションのスケジュール、到達目標などの説明と、前期授業の振り返りと今後の学習内容の確認を実施
2	プレゼンテーション(1)	企画: プレゼンテーションの種類、企画書、ストーリープランニング ビジュアル化: 情報の分類、図解、プレゼンテーションツール
3	プレゼンテーション(2)	話し方: 魅力あるプレゼンテーション、第一印象、聞きやすい話し方 リハーサル: シナリオの確認、全体確認、リラクゼーション
4	プレゼンテーション実習(1)	各自、企画書とプレゼンテーション用のスライド、資料、台本を準備する
5	プレゼンテーション実習(2)	各自、企画書とプレゼンテーション用のスライド、資料、台本を準備し、提出を行う
6	プレゼンテーションの評価と共有	各自の成果物を持ち寄り、共有する
7	プレゼンテーション実習(3)	第1回プレゼンテーションに向けて準備を実施 スライド作成、配布資料作成、原稿作成
8	プレゼンテーション実習(4)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成、提出 リハーサルと振り返り
9	プレゼンテーション実習(5)	第1回プレゼンテーション実施 議事録提出と振り返り
10	プレゼンテーション実習(6)	第2回プレゼンテーションに向けて準備を実施 スライド作成、配布資料作成、原稿作成
11	プレゼンテーション実習(7)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
12	プレゼンテーション実習(8)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成、提出 リハーサルと振り返り
13	プレゼンテーション実習(9)	第2回プレゼンテーション実施 議事録提出と振り返り
14	学科内発表準備(1)	スライド作成、配布資料作成、原稿作成
15	学科内発表準備(2)	スライド校正、配布資料校正、原稿校正、リハーサル、卒業研究発表会ブース練習
16		

<b>備考</b>	
-----------	--

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	社会人基礎力応用 I	分類	教養科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 飯田 剛大		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々なグループワークや学校行事の運営により養う。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

グループワークの中で話し合い、発言、傾聴、考察を行い、リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上を目指す。  
グループでアプリ企画を考えITアプリアワードアイデア部門への応募を目指す。

### 3. 注意点・要望

「モメている」=真剣な証拠、「失敗した」=チャレンジした証拠、  
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

### 4. 関連科目

ビジネス関連科目全て、卒業研究

週	テーマ	内容
1	アプリ企画の応募	アプリ企画の概要について
2	アプリ企画の応募	グループでプレゼンテーションの準備を進める
3	アプリ企画の応募	グループでプレゼンテーションの準備を進める
4	アプリ企画の応募	グループでプレゼンテーションの準備を進める
5	アプリ企画の応募	グループでプレゼンテーションのリハーサルを行う
6	アプリ企画の応募	グループでプレゼンテーションのリハーサルを行う
7	アプリ企画の応募	アプリ企画の発表を行う
8	アプリ企画の応募	アプリ企画の発表を行う
9	アプリ企画の応募	グループワークの振り返り、議事録の提出
10	卒業研究に向けて	後期卒業研究の概要、目的と意義について
11	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
12	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
13	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
14	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
15	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)
16	卒業研究に向けて	卒業研究に向けてのグループワーク(市場分析とテーマの決定)

備考	社会人経験のある教員が、その経験を活かして社会人に必要な力の向上を指導する。
----	--

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	社会人基礎力応用Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 飯田 剛大		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々なグループワークや学校行事の運営により養う。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

グループワークの中で話し合い、発言、傾聴、考察を行い、リーダー・フォロワー、提案、許容、協調等の資質向上を目指す。

### 3. 注意点・要望

「モメている」= 真剣な証拠、「失敗した」= チャレンジした証拠、  
社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

### 4. 関連科目

ビジネス関連科目全て、卒業研究

週	テーマ	内容
1	グループワーク	発信力をつけるには
2	グループワーク	発信力をつけるには
3	グループワーク	発信力をつけるには
4	グループワーク	傾聴力をつけるには
5	グループワーク	傾聴力をつけるには
6	グループワーク	傾聴力をつけるには
7	グループワーク	柔軟性をつけるには
8	グループワーク	柔軟性をつけるには
9	グループワーク	柔軟性をつけるには
10	グループワーク	状況把握力をつけるには
11	グループワーク	状況把握力をつけるには
12	グループワーク	状況把握力をつけるには
13	グループワーク	規律性をつけるには
14	グループワーク	規律性をつけるには
15	グループワーク	ストレスコントロールをつけるには
16	グループワーク	ストレスコントロールをつけるには

備考	社会人経験のある教員が、その経験を活かして社会人に必要な力の向上を指導する。
----	--

科目	UML基礎	分類	専門科目、必修科目
担当	1組: 鶴澤 光希、2組: 清田 玲摩、3組: 飯田 剛大		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

**1. 授業の概要**

オブジェクト指向開発で用いられるUMLの代表的な図法の基礎を習得し、各図の書き方と特徴を理解する。  
UML以外の設計書についても併せて講義を行う。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

- (1) Word, Excelを使い、見やすい設計書を作成できるようになる。  
(2) 設計書を見た相手が何をどうしていくのか、自らの説明を含めて理解を得られる設計内容が作成できるようになる。

**3. 注意点・要望**

テーマごとに課題を出す予定です。  
課題は内容と期日内の提出を重点的に評価しますので授業時間外の時間も有効的に使って取り組んでください。

**4. 関連科目**

卒業研究

週	テーマ	内容
1	初回ガイダンス	・設計とUMLについて
2	ユースケース図	・新システム導入後の業務の流れ・既存システムとの関係・既存システムの仕組み ・ユースケース図の作成
3	ユースケース図	・新システム導入後の業務の流れ・既存システムとの関係・既存システムの仕組み ・ユースケース図の作成
4	画面レイアウト	ラフスケッチを元にした画面レイアウトの作成
5	画面レイアウト	ラフスケッチを元にした画面レイアウトの作成
6	オブジェクト図	画面レイアウトを元にしたオブジェクト図の作成
7	オブジェクト図	画面レイアウトを元にしたオブジェクト図の作成
8	シーケンス図	画面レイアウトとオブジェクト図を元にしたシーケンス図の作成
9	シーケンス図	画面レイアウトとオブジェクト図を元にしたシーケンス図の作成
10	クラス図	画面レイアウトとオブジェクト図を元にしたクラス図の作成
11	クラス図	画面レイアウトとオブジェクト図を元にしたクラス図の作成
12	画面レイアウト	スクリーンショットを載せたデモ画面の作成と、機能説明
13	画面レイアウト	スクリーンショットを載せたデモ画面の作成と、機能説明
14	卒業研究に向けた設計作業	卒業研究に向けた設計作業
15	卒業研究に向けた設計作業	卒業研究に向けた設計作業
16	卒業研究に向けた設計作業	卒業研究に向けた設計作業

備考

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	情報倫理と生成AI活用S	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	柏木 貴大		
<b>テキスト (出版社)</b>	オリジナル教材		
<b>参考資料</b>	-		

<b>評価基準</b>	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	<b>単位数</b>	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

生成AIを活用するにあたり必要となる情報倫理を学んだうえで、生成AIの活用方法を知ることによって社会人として利用できるシーンとそうでないシーンを明確にし、会社に必要な人材となることを目指す。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

情報倫理に反しない生成AIを活用できるようになる。

**3. 注意点・要望**

生成AIを利用することは暮らしを豊かにするが、知らずのうちに法を犯すリスクが高まる。生成AIを正しく活用するためにも情報倫理を明確に理解すること。

**4. 関連科目**

-

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、授業概要の共有、生成AIとその種類
2	インターネット活用方法	生成AI以前のインターネットの活用方法、倫理観の共有
3	生成AIの活用方法と情報倫理(1)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
4	生成AIの活用方法と情報倫理(2)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
5	生成AIの活用方法と情報倫理(3)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
6	生成AIの活用方法と情報倫理(4)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
7	生成AIの活用方法と情報倫理(5)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
8	生成AIの活用方法と情報倫理(6)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
9	生成AIの活用方法と情報倫理(7)	実際に試しながら生成AIと情報倫理を学ぶ
10	ビジネスシーン全般での応用(1)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ
11	ビジネスシーン全般での応用(2)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ
12	ビジネスシーン全般での応用(3)	生成AIのビジネスシーン全般への応用方法を学ぶ
13	ビジネスプロセス、システム開発での応用(1)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ
14	ビジネスプロセス、システム開発での応用(2)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ
15	ビジネスプロセス、システム開発での応用(3)	生成AIのビジネスプロセスやシステム開発への応用方法を学ぶ
16	後期試験期間	-

<b>備考</b>	IT業界でシステムエンジニアを経験した教員が、実践的な活用方法について講義を行う。
-----------	---

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	とっさに使えるフレーズ英会話S	分類	教養科目、任選科目
担当	菊池 浩之		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

英語によるコミュニケーション能力の向上を目的とし、様々な場面におけるフレーズ表現をロールプレイで実際に体験しながら学びます。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

日常生活の中で、とっさに英語を使ったコミュニケーションがとれるようになる。

### 3. 注意点・要望

英語はコミュニケーションツールの一つにすぎません。文法的な間違いを恐れずに、伝えたい・理解したいという気持ちを大切にすること。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	あいさつと自己紹介	はじめてや久しぶりに会った時のあいさつと近況を訪ねよう
2	日常の会話表現①	スモールトーク(雑談)で相手との距離を縮めよう
3	日常の会話表現②	感情表現を使って自分の気持ちを相手に伝えよう
4	日常の会話表現③	意志・許可・依頼などの表現を使って意志疎通を図ろう
5	日常の会話表現④	命令・忠告・関心などの表現を使って意志疎通を図ろう
6	日常の会話表現⑤	身につけたフレーズを使ってコミュニケーションを図ろう
7	日常の会話表現⑥	電話の掛け方や伝言の残し方を、掛け手と受け手でやってみよう
8	旅行に行く①	ホテルの予約や現地です道を尋ねよう
9	旅行に行く②	ショッピングやレストランで楽しもう
10	旅行に行く③	街中の散策や観光名所を回ろう
11	外国人観光客の案内①	道案内や電車の乗り換えなど、困っている外国人を助けよう
12	外国人観光客の案内②	日本の文化や観光名所を案内してみよう
13	ビジネスで役立つ表現①	オフィスでの上司、同僚、部下や顧客とのコミュニケーションを図ろう
14	ビジネスで役立つ表現②	会議の中で、意見交換やファシリテーターをしてみよう
15	後期試験期間	テーマを考えて、ロールプレイを行う
16	-	-

備考	-
----	---

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	応用情報組込みシステム開発対策講座S	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	橘 純平		
<b>テキスト (出版社)</b>	オリジナル教材		
<b>参考資料</b>	-		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	1
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%		

<b>1. 授業の概要</b>
応用情報技術者試験合格に向けて、組込みシステム開発の基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。
<b>2. 授業の目標(検定取得など)</b>
応用情報技術者試験の合格。
<b>3. 注意点・要望</b>
毎回の知識の積み重ねが必要となる科目なので、欠席をしないこと。
<b>4. 関連科目</b>
-

週	テーマ	内容
1	リアルタイムOS	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(1)
2	MPUアーキテクチャ	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(2)
3	省電力、高信頼設計、メモリ管理	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(3)
4	センサ	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(4)
5	アクチュエータ	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(5)
6	組込みシステムの設計	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(6)
7	個別アプリケーション(1)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(7)
8	個別アプリケーション(2)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(8)
9	個別アプリケーション(3)	過去問題の題材をベースとして講義、解説を行う(9)
10	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
11	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
12	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
13	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
14	応用情報過去問題演習(5)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(5)
15	応用情報過去問題演習(6)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(6)
16	後期試験期間	-

<b>備考</b>	-
-----------	---

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	応用情報ストラテジスト対策講座S	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	須藤 健一郎		
<b>テキスト (出版社)</b>	なし		
<b>参考資料</b>	プリント教材		

<b>評価基準</b>	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	<b>単位数</b>	1
	0%	0%	30%	30%	0%	40%	100%		

**1. 授業の概要**

応用情報技術者試験合格に向け、経営戦略／情報戦略／戦略立案・コンサルティング技法の基礎知識の解き方を学ぶ。  
 なお、これまでの過去問比率から、約9割が経営戦略の範囲となるので、念頭に入れること。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験の合格。

**3. 注意点・要望**

本項目の扱う問題は、経営的な目線、戦略的な観点、各種分析、各種計算と、基礎知識が重要で、広く深い分野になっている。  
 そのため、思考好きで経営に興味があり、多角的なものを見方をし、計算問題も挑戦したいという学生に向けた内容と言える。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	ガイダンスと分野の基礎	経営戦略／情報戦略／戦略立案・コンサルティング技法を学ぶにあたって、学習の仕方を学び、分野対応の基礎固めを実施する。
2	経営戦略対策(1)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
3	経営戦略対策(2)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
4	経営戦略対策(3)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
5	経営戦略対策(4)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
6	経営戦略対策(5)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
7	経営戦略対策(6)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
8	経営戦略対策(7)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
9	経営戦略対策(8)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
10	経営戦略対策(9)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
11	経営戦略対策(10)	経営戦略対策講義、過去問演習、解説
12	情報戦略対策(1)	情報戦略対策講義、過去問演習、解説
13	情報戦略対策(2)	情報戦略対策講義、過去問演習、解説
14	戦略立案・ コンサルティング技法対策(1)	戦略立案・コンサルティング技法対策講義、過去問演習、解説
15	戦略立案・ コンサルティング技法対策(2)	戦略立案・コンサルティング技法対策講義、過去問演習、解説
16	後期試験期間	-

<b>備考</b>	
-----------	--

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【前期】**

<b>科目</b>	応用情報データベース対策講座S I	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	清田 玲摩		
<b>テキスト (出版社)</b>	なし		
<b>参考資料</b>	プリント教材		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	2
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

応用情報技術者試験におけるデータベースの分野について学習する。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験のデータベースの科目の問題が解けるようになる。

**3. 注意点・要望**

週に1回しかない為、わからないことはその日のうちに解消しておくこと。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	導入	データベースについての確認
2	データベース方式(1)	データベースの種類と特徴、スキーマ、データモデル
3	データベース方式(2)	データベース管理システムの目的、排他制御
4	データベース設計(1)	データ分析
5	データベース設計(2)	データベース開発工程、概念設計、論理設計
6	データベース設計(3)	データ正規化、パフォーマンス設計、物理設計
7	データベース設計(4)	データベース作成手順、評価、運用
8	データ操作(1)	データベースの操作
9	データ操作(2)	データベース言語
10	トランザクション処理(1)	排他制御、障害回復、トランザクション管理
11	トランザクション処理(2)	性能向上、アクセス制御
12	データベース応用(1)	データベースの応用、分散データベース
13	データベース応用(2)	データ資源管理
14	過去問題対策(1)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
15	前期試験期間	-
16		

<b>備考</b>	通信関連IT企業でインフラ整備経験のある教員が実務経験を活かして講義を行う。
-----------	--

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	応用情報データベース対策講座SⅡ	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	清田 玲摩		
<b>テキスト (出版社)</b>	なし		
<b>参考資料</b>	プリント教材		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	1
	0%	0%	0%	50%	20%	30%	100%		

**1. 授業の概要**

応用情報技術者試験におけるデータベースの分野について学習する。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験のデータベースの科目の問題が解けるようになる。

**3. 注意点・要望**

データベースの知識だけでなく、解答の仕方を意識しながら問題をとくこと。

**4. 関連科目**

週	テーマ	内容
1	過去問題対策と講義(1)	問題を解き、問題の仕方、解答の仕方を解説
2	過去問題対策と講義(1)	問題を解き、問題の仕方、解答の仕方を解説
3	過去問題対策と講義(2)	問題を解き、問題の仕方、解答の仕方を解説
4	過去問題対策と講義(2)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
5	過去問題対策と講義(3)	問題を解き、問題の仕方、解答の仕方を解説
6	過去問題対策と講義(3)	問題を解き、問題の仕方、解答の仕方を解説
7	過去問題対策(1)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
8	過去問題対策(1)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
9	過去問題対策(2)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
10	過去問題対策(2)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
11	過去問題対策(3)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
12	過去問題対策(3)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
13	過去問題対策(4)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
14	過去問題対策(4)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
15	過去問題対策(5)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し
16	過去問題対策(5)	本番の試験時間を意識した問題演習及び見直し

**備考** 通信関連IT企業でインフラ整備経験のある教員が実務経験を活かして講義を行う。

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	ゲーム制作S	分類	専門科目、任選科目
担当	朝賀 勝広		
テキスト (出版社)			
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

ゲーム制作に関する講義と実習。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

ゲームエンジン「Godot」を使い、コンピューターゲームの基本的な仕組み、考え方、それに必要なプログラミングなどの基礎知識と技術を身につける。

### 3. 注意点・要望

開発ツールの使い方を覚え、自分の手でプログラムを作成できるようにすること。  
協力しながら開発して構わない。お互いに教え合うことで自分の理解も深めること。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	ガイダンス Godotエンジンの概要	ゲーム開発の基本概念の説明 Godotエンジンの特徴やプロジェクトの作成方法
2	プロジェクトの作成とエディタの基本	プロジェクトの作成と管理 シーンエディタの基本的な操作
3	シーンとノードの理解	シーンとノードの基本概念 シーンエディタを使用してノードの配置と連携
4	GDScriptについて	GDScriptの基本構文、変数、条件分岐、繰り返し構造
5	キャラクターの制御	プレイヤーキャラクターの動きの制御 入力処理の実装
6	衝突とアクション	衝突の検知と基本的なアクションの追加 アニメーションの制御
7	ゲームのデバッグと改善	ゲームのデバッグとテスト方法
8	サンプルゲーム制作(1)	サンプルゲーム作成
9	サンプルゲーム制作(2)	作成したサンプルゲームの解説
10	サンプルゲーム制作(3)	作成したサンプルゲームの改造
11	自由制作(1)	オリジナルゲームの制作(1)
12	自由制作(2)	オリジナルゲームの制作(2)
13	自由制作(3)	オリジナルゲームの制作(3)
14	自由制作(4)	オリジナルゲームの制作(4)
15	発表	作成したオリジナルゲームの発表
16		

備考	システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う。
----	--

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	応用情報サービスマネジメント対策講座S	分類	専門科目、任選科目
担当	野本 修平		
テキスト (出版社)	オリジナル教材		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

応用情報技術者試験合格に向けて、サービスマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験の合格。

### 3. 注意点・要望

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	インフラストラクチャの概要	オンプレミス、クラウドにおけるシステム運用に関するインフラストラクチャの説明
2	SLA、OLAの概要	SLA、OLAの内容、軸、考え方を理解する
3	運用保守における用語説明	システム移行やリハーサルの流れ、その他関連する単語の理解
4	可用性、信頼性など	MTBF、MTTRなどの計算問題の理解
5	サービスオペレーション	ITIL準拠のサービスオペレーションの全容を理解する
6	インシデント対応(1)	サポートデスクにおけるインシデント対応
7	インシデント対応(2)	インシデント発生時のけるエスカレーション
8	インシデント対応(3)	インシデント対応時のIT技術利用
9	インシデント対応(4)	インシデントのプライオリティと切り分けの考え方
10	暫定対処と恒久対処	インシデントに対する暫定対処と恒久対処
11	問題管理	問題管理における考え方
12	変更管理	バージョン管理やインフラのシステム管理
13	サービスデザイン	クラウドを利用した形でのサービスデザイン
14	キャパシティ管理	運用保守におけるキャパシティ管理の考え方
15	文章管理と資産管理	運用保守における文章管理と資産管理
16	後期試験期間	-

備考	IT業界でPM経験を有する教員が講義を行う。
----	------------------------

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	応用情報総合対策講座S	分類	専門科目、任選科目
担当	清田 玲摩・松脇 和樹		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	1
	0%	0%	0%	50%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

応用情報技術者試験の基礎知識の学習

2. 授業の目標(検定取得など)

応用情報技術者試験午前問題が解けるようになる

3. 注意点・要望

週に1回しかない為、わからないことはその日のうちに解消しておくこと

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	テクノロジー(1)	基礎理論について
2	テクノロジー(2)	基礎理論について
3	テクノロジー(3)	コンピュータシステムについて
4	テクノロジー(4)	コンピュータシステムについて
5	テクノロジー(5)	技術要素について
6	テクノロジー(6)	技術要素について
7	テクノロジー(7)	開発技術について
8	テクノロジー(8)	開発技術について
9	マネジメント(1)	プロジェクトマネジメントについて
10	マネジメント(2)	プロジェクトマネジメントについて
11	マネジメント(3)	サービスマネジメント
12	マネジメント(4)	サービスマネジメント
13	ストラテジ(1)	システム戦略、経営戦略
14	ストラテジ(2)	システム戦略、経営戦略
15	ストラテジ(3)	経営戦略、企業と法務
16	ストラテジ(4)	経営戦略、企業と法務

備考	-
----	---



<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【前期】**

<b>科目</b>	応用情報午前対策講座S	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	松脇 和樹・高橋 洋平		
<b>テキスト (出版社)</b>	オリジナル教材		
<b>参考資料</b>	-		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	2
	0%	0%	20%	30%	0%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

午前問題では、基本的なIT用語や技術、理論的な知識を中心に学習し、効率的に理解できるような勉強方法を工夫します。  
午後問題では、実際の問題を通じて、午前の知識がどれだけ重要であるかを実感し、より深い理解を得ていきます。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験の午前問題において、データベース・ネットワークを除く基礎知識をしっかりと身につけます。  
得点の6~7割を確保できることを目標とします。

**3. 注意点・要望**

毎週の課題をしっかりとこなしてください。

**4. 関連科目**

-

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の目的、勉強の進め方
2	基礎理論(1)	離散数学
3	基礎理論(2)	応用数学
4	プロジェクトマネジメント概要、 日程管理、コスト管理	プロジェクトマネジメントの目的、PMBOK、スコープ管理、 アローダイアグラム、進捗管理、見積り技法
5	リスク管理、サービスマネジメント、 システム監査	リスク、リスクの識別、リスク対応計画、ITIL、SLA、 システム監査の目的、システム監査人、システム監査の流れ、内部統制
6	企業の組織、財務会計、棚卸評価、 財務分析、損益分岐点分析	企業活動、経営組織、財務諸表、棚卸評価、 財務分析、費用、利益、損益分岐点分析
7	オペレーションズ・リサーチ、 知的財産権、労働と契約の法制度	オペレーションズ・リサーチ、線形計画法、在庫管理、QC七つ道具、 インダストリアルエンジニアリング、知的財産権の種類、労働者派遣法
8	応用情報午前対策(1)	小テスト(1)
9	コンピュータ要素	プロセッサ、メモリ、入出力装置
10	システム構成要素	構成要素、評価指標
11	ソフトウェア	OS、開発ツール、OSS
12	ハードウェア、ヒューマンインタフェース マルチメディア	ハードウェア、ヒューマンインタフェース、インターフェース設計、マルチメディア
13	セキュリティ(1)	情報セキュリティの管理、評価、対策、実装、攻撃手法(1)
14	セキュリティ(2)、開発技術	情報セキュリティの管理、評価、対策、実装、攻撃手法(2) システム開発
15	応用情報午前対策(2)	小テスト(2)
16	前期試験期間	-

<b>備考</b>	-
-----------	---

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	実践的セキュアプログラミング演習S	分類	専門科目、任選科目
担当	石神 和也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

実業務で活用されているプログラミングに関するテクニックやセキュリティについて学びます。会社の新人研修に近い形式での実習を行うことができます。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

入社1年目が起こしやすいミスなどを事前に理解し、対策を講じることができるようになることを目標としています。

### 3. 注意点・要望

JSPやHTML/jsなどを用いて簡単なWebアプリが構築できることが望ましいです。

### 4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	プログラミングテクニック(1)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
2	プログラミングテクニック(2)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
3	プログラミングテクニック(3)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
4	プログラミングテクニック(4)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
5	プログラミングテクニック(5)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
6	プログラミングテクニック(6)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
7	プログラミングテクニック(7)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
8	プログラミングテクニック(8)	プログラミングの実践的なテクニックを学ぶ。また、作成したプログラムに対してコードレビューや検討会を実施する。
9	セキュアプログラミング(1)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
10	セキュアプログラミング(2)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
11	セキュアプログラミング(3)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
12	セキュアプログラミング(4)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
13	セキュアプログラミング(5)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
14	セキュアプログラミング(6)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
15	セキュアプログラミング(7)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。
16	セキュアプログラミング(8)	XSS攻撃やSQLインジェクションなどのセキュリティ対策だけでなく、共通化や例外処理など運用上におけるセキュアなプログラミングについて学ぶ。

備考	システムエンジニアとして開発リーダー経験が豊富な教員が講義を行う。
----	-----------------------------------

情報処理科	2年
-------	----

【前期】

科目	Pythonプログラミング演習S	分類	専門科目、任選科目
担当	飯田 剛大、石神 和也		
テキスト (出版社)	スッキリわかるPython入門 第2版(株式会社インプレス)		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

### 1. 授業の概要

Pythonの基本構文と様々なライブラリの使い方について学習する

### 2. 授業の目標(検定取得など)

Pythonを用いて目的とするプログラムを作成するための基礎を身につける

### 3. 注意点・要望

教科書の内容に沿った実習課題を行うため、前期に渡す教科書を無くさないこと

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	導入	インタラクティブモードとスクリプトモード Pythonプログラムの開発環境と実行方法の確認
2	変数とデータ型	式、演算、変数、データ型
3	コンテナ	リスト、ディクショナリ、タプル、セット
4	条件分岐(1)	条件分岐の構造、条件式
5	条件分岐(2)	分岐構文のバリエーション
6	繰り返し(1)	繰り返しの構造、for文
7	繰り返し(2)	繰り返しの制御
8	関数(1)	オリジナル関数の作成
9	関数(2)	引数と戻り値
10	関数(3)	関数の応用
11	オブジェクト(1)	オブジェクトについて
12	オブジェクト(2)	クラス
13	モジュール(1)	組み込み関数やモジュールを使ったプログラム
14	モジュール(2)	組み込み関数やモジュールを使ったプログラム
15	モジュール(3)	パッケージや外部ライブラリを使ったプログラム
16		

備考	システム開発経験のある教員が、実務経験を生かしてプログラミングの講義を行う。
----	--

情報処理科	2年
-------	----

【後期】

科目	Javaプログラミング演習S	分類	専門科目、任選科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	なし		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	10%	0%	50%	100%		

### 1. 授業の概要

Javaを通じて、基本的なプログラミングを学習するための授業です。  
プログラミングの基礎から、オブジェクトの入口まで学習します。

### 2. 授業の目標(検定取得など)

就職前に、プログラミング言語を活用できるまでの力を身に着けることが目的です。  
ゆっくりペースでかみ砕き、基本的なプログラムの流れを理解します。

### 3. 注意点・要望

1回欠席した場合、追いつくのが大変になってしまう回もあります。  
休まず出席し、プログラムが動いたときの達成感をモチベーションに、じっくり学んで行きましょう。

### 4. 関連科目

週	テーマ	内容
1	オリエンテーション Java言語の概要と開発環境構築	授業の目標、進め方及び評価方法の理解 Java言語の概要の理解、統合開発環境(IDE)の使い方
2	プログラムの基本的な書き方	プログラムの全体構成、ブロックとインデント、コメント文、 2種類のコンソール出力(printlnメソッドとprintメソッド)
3	データ型と変数	データ型の種類と役割、変数、変数の宣言
4	変数とキーボード入力	変数とキーボードから入力した値を扱う
5	式と演算子	四則演算やインクリメント、演算子の優先順位
6	分岐処理(1)	if文を使った分岐処理
7	分岐処理(2)	if-else文を使った分岐処理
8	分岐処理(3)	if-elseif-else文を使った分岐処理
9	繰り返し処理(1)	for文を使った繰り返し処理
10	繰り返し処理(2)	while文を使った繰り返し処理
11	繰り返し処理(3)	while文にif文、break文を加えた繰り返し処理
12	配列(1)	配列の仕組み、宣言と利用方法
13	配列(2)	繰り返しと配列を組み合わせたプログラム作成の基礎
14	配列(3)	繰り返しと配列を組み合わせたプログラム作成の応用
15	メソッド(1)	メソッドの構造と作成方法、引数・戻り値の理解、呼び出し方法
16	後期試験期間	-

備考	
----	--

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	応用情報ネットワーク対策講座SⅡ	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	加藤 尚喜		
<b>テキスト (出版社)</b>	-		
<b>参考資料</b>	プリント資料		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	1
	0%	0%	20%	0%	30%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

応用情報技術者試験のネットワーク分野に関して、午後問題演習を実施する。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験の合格

**3. 注意点・要望**

午後問題は記述式解答となるので、不正解でもよいので意識して答えを書き出すことが重要です。

**4. 関連科目**

—

週	テーマ	内容
1	応用情報ネットワーク対策講座(1)	午後問題演習(1)
2	応用情報ネットワーク対策講座(2)	午後問題演習(2)
3	応用情報ネットワーク対策講座(3)	午後問題演習(3)
4	応用情報ネットワーク対策講座(4)	午後問題演習(4)
5	応用情報ネットワーク対策講座(5)	午後問題演習(5)
6	応用情報ネットワーク対策講座(6)	秋期試験の反省・春期試験への反映事項 じ後の目標設定(高度情報技術者試験、他の資格取得など)
7	応用情報ネットワーク対策講座(7)	各種資格試験対策(1)
8	応用情報ネットワーク対策講座(8)	各種資格試験対策(2)
9	応用情報ネットワーク対策講座(9)	各種資格試験対策(3)
10	応用情報ネットワーク対策講座(10)	各種資格試験対策(4)
11	応用情報ネットワーク対策講座(11)	各種資格試験対策(5)
12	応用情報ネットワーク対策講座(12)	各種資格試験対策(6)
13	応用情報ネットワーク対策講座(13)	各種資格試験対策(7)
14	応用情報ネットワーク対策講座(14)	各種資格試験対策(8)
15	応用情報ネットワーク対策講座(15)	各種資格試験対策(9)
16	後期試験期間	—

<b>備考</b>	情報セキュリティ担当者として勤務経験のある教員が、実務経験を活かして講義を行う。
-----------	--

<b>情報処理科</b>	<b>2年</b>
--------------	-----------

**【後期】**

<b>科目</b>	応用情報プロジェクトマネジメント対策講座S	<b>分類</b>	専門科目、任選科目
<b>担当</b>	野本 修平		
<b>テキスト (出版社)</b>	オリジナル教材		
<b>参考資料</b>	-		

<b>評価基準</b>	<b>期末試験</b>	<b>レポート</b>	<b>授業課題</b>	<b>小テスト</b>	<b>目標資格</b>	<b>平常点</b>	<b>合計</b>	<b>単位数</b>	1
	0%	0%	30%	0%	20%	50%	100%		

**1. 授業の概要**

応用情報技術者試験合格に向けて、プロジェクトマネジメントの基礎知識、基本となる考え方を学ぶ。

**2. 授業の目標(検定取得など)**

応用情報技術者試験の合格。

**3. 注意点・要望**

講義を受けた後に自学自習をしないと知識は抜けてしまいます。しっかり復習をすること。

**4. 関連科目**

-

週	テーマ	内容
1	システム開発のV字モデル	システム開発における全体の流れを理解し、各工程での役割を意識する
2	各種開発技法	アジャイル・ウォーターホールにおけるプロジェクトマネジメントのポイントを学ぶ
3	プロジェクトマネジメントにおける考え方	組織における業務部門間の調整や、ベンダーとのやり取りにおけるケアするポイントを学ぶ
4	コストマネジメント	コストマネジメントを行う上での注意点/EVMの計算方法
5	調達マネジメント	資源調達、ベンダー調達におけるポイントを学ぶ
6	品質マネジメント	成果物品質におけるプロジェクトマネジメントの考え方を学ぶ
7	ステークホルダーマネジメント	ステークホルダーをコントロールするためのコミュニケーション技法などを学ぶ
8	コミュニケーションマネジメント	プロジェクトマネジメントにおけるコミュニケーションマネジメントを体系的に学ぶ
9	スコープマネジメント	WBSなどを題材としてプロジェクトにおけるスコープの確定方法、変更手順などを学ぶ
10	プロジェクトの終結	各知識エリアに紐づくプロジェクトの終結フェーズを学ぶ
11	統合マネジメント	PMBOKをベースに各種知識エリアの内容を踏まえた全体像を学ぶ
12	応用情報過去問題演習(1)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(1)
13	応用情報過去問題演習(2)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(2)
14	応用情報過去問題演習(3)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(3)
15	応用情報過去問題演習(4)	過去問題の題材をベースとして問題演習を行う(4)
16	後期試験期間	-

<b>備考</b>	IT業界でPM経験を有する教員が講義を行う。
-----------	------------------------